

光る未来に全ツツパ。⑥

『專業スロッター先輩に恋愛指南を頼む』

『恋とスロットの共通点？ そりゃお前……設定6でも負ける時は負ける”ってことよ”』

「名言キターー!!」

俺は思わずコースケ先輩に拍手を送った。場所は松阪駅裏の喫煙スペース。今日の実戦ホール前に、先輩に会って雑談中。

「っていうか先輩、今なんてこんなところるんすか？」

「昨日徹夜で牙狼打ってたら、朝方に金ヤマ金ヤラれたからメシ抜いてるだけや」

「金ヤマ金……深え……」

「ちなみに恋は金ヤマ金より深えぞ。抜けると思ったら沈む」

「やべえ……それ、動画タイトルにしますね」

そんな名言製造機・コースケ先輩。この人は俺が高校の頃から知ってて、松阪スロ界隈では『設定看板の鬼』として有名(※本人談)だ。

「てか、ミサキちゃんとは最近どうなん？」

「え、なんて急に？」

「いやあ、お前ら”付き合っていないのに付き合ってる風”って構図、意外とリアルやん？」

「う、まあ……」

「で、どっちが先に惚れるかやな」

「いやいや、惚れないっすよ！てか俺、恋愛とかじゃなくて動画バズらせたくて——」

「その言い訳が一番ヤバいんよな」

先輩は煙草の煙をふわっと吐いて笑った。そのあと、俺とミサキは動画撮影で『スマスロ東京喰種』を並び打ち。(先輩はとんりのシマでパチスロ犬夜叉に消えた)

今日はミサキが主役回らしい。

「今回の動画タイトル、”東京喰種を喰らった女”にしようかな」

「いや、”喰種を喰わせた男”の方がカッコよくね？」

「喰わせてないやろ」

確かに、俺の台は通常画面から一歩も動いてない。途中で隣の台に座った、ツインテールの小柄な女の子がいた。明るい感じで、俺の”チラ見キャッチ”にも微笑みを返してくれる。……これは、ワンチャンある？

「ども、俺、スロカップルYouTuberやってる——」

「え、あの動画の人!？」

うお、マジか！これ……”認知”来た!？」

「マジ笑ったんだけど！彼女さんめっちゃかわいくて!」

「え、彼女じゃなくて——」

「あ、違うんだ？えー、意外。お似合いなの!」

「……そ、そうっすかね」

まさかの、俺じゃなくてミサキを褒められるパターン”来た。撮影が終わってから、俺は先輩に報告した。

「マジっすよ先輩……俺が声かけたのに、全部ミサキに話題持たれて……」

「ふむ。そいつあ”設定判別ミス”やな」

「え、恋愛にも設定あるんすか？」

「あるある。しかも6段階や。6段階やけど、バグもある」

「バグ……」

「たまに、1やのに神展開するし、6でも1日中通常画面みたいな子もおる。恋は”スロより深え”」

「その名言、もう本出した方がいいっすよ」

その夜、帰り道。

ミサキがぼつりと言った。

「今日の子、かわいかったな」

「え？誰が？」

「隣の子」

「ああ、あの……まあな」

「……話、盛り上がりつつあったみたいやし」

「いや、別に」

沈黙。

「……でも俺は、ミサキに助けられとるから。マジで」

「……なに急に」

「いや、なんか。ちよっと思っただけ」

ミサキが、こつちを見た。

「……ありがとう」

ほんの少しだけ、笑っていた。コースケ先輩、言ってたな。

”恋とスロは、バグだらけ”

……それ、今ならわかる気がする。

